

予防接種は順調ですか？



予防接種は、感染症にかかることを予防する最も確実な方法です。

ワクチンが開発される感染症は、後遺症を残したり、命を失う危険があり、対症療法しかないのが特徴です。

予防接種を受けることは、子どもが元気に生きていくための権利です。

一人ひとりが確実に接種することで、子どもさん自身はもちろん、周りにいる大切な人を感染症、そして感染症による合併症や後遺症から守ることができます。

進学時や、海外旅行・留学時に予防接種歴を必要とし、確認されることもありますので、公費対象（無料）のうちに接種されることをおすすめします。

1歳のお誕生日の前日までが公費対象(無料)のもの

- BCG
- B型肝炎（合計3回）

1歳のお誕生日がきたら接種するもの

- 麻疹風しん1期（2歳のお誕生日前日まで無料）
- 水痘 計2回 （3歳のお誕生日前日まで無料）
- 小児用肺炎球菌・五種混合の追加分（4回目）

任意接種ですが…

- おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）のワクチンも1歳以降に接種できます。

風しん

- 体に赤い発疹ができます。熱は出ないこともあります。脳炎や血小板減少性紫斑病という合併症が起こることがあります。
- 妊娠初期の女性がかかると先天性風しん症候群（目や耳、心臓などに先天性の疾患）の赤ちゃんが生まれる原因となります。
- 国内での流行もあり、2012～2014年で45人の赤ちゃんが先天性風しん症候群と診断されています。
- 風しんの発症を予防するには、合計2回の接種が必要です。2回目は年長さんの年に受けます。

麻疹(はしか)

- 熱、鼻水、せきなどの症状のあと、3～4日目から全身に発疹が出て、高熱が7～10日続きます。気管支炎、肺炎、脳炎等を合併しやすく、死亡することもあります。
- 妊婦が感染すると流産や早産のリスクがあります。
- 世界各地で大きな流行を繰り返しており、ニューヨークでは、予防接種を受けない考えの人々を中心に数百人規模の集団感染が起きました。日本でも2019年に700人以上の発症が報告されています。飛沫感染や接触感染に加え、空気感染もする非常に強い感染力を持ち、感染すればほぼ100%の確率で発症します。医療の発達した先進国でも死亡例のある病気です。



水痘（水ぼうそう）

- 感染力が強く、集団保育などで流行しやすい病気で、免疫がなければほぼ確実に感染します。強いかゆみと共に全身に広がります。
- 通常は軽い症状で済みますが、あとが残ったり、肺炎や肝炎などを起こすこともあります。毎年100万人以上が発症、約4000人が入院し、10人程度が死亡しています。

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）【任意】

- 発熱や耳下腺の腫れが特徴で、無菌性髄膜炎や、回復が難しい難聴などの合併症が多い病気です。思春期以降の感染では、精巣炎や卵巣炎を併発することもあります。集団生活のなかでの感染が多いです。
- 1歳を迎えたら1回、2回目は就学前の接種が推奨されています。

ワクチンに関する…よくある

Q & A



Q1. 接種による副反応が心配です。

A. ワクチンは副反応がこわいと心配される方は少なくありません。副反応が起きる可能性はゼロではないので、その心配はとても重要です。

ただ、どの病気も予防接種を受けなくて病気にかかった場合に症状はずっと重い可能性があり、ワクチンはそれを防ぐために作られたことを忘れないようにしましょう。

わからないことや心配なことがあれば、相談してくださいね。

Q2. 水ぼうそうやおたふくはかかって免疫をつけたほうがよいと聞きました。

A. 病気にかかる方がよいという考え方は絶対にNGです！できればかからずに予防したいものです。

おたふくかぜは自然感染した場合、10~20人に1人の割合で無菌性髄膜炎を引き起こします。水ぼうそうも重症化すると後遺症をもたらす場合があります。

Q3. ワクチンの添加物が気になります。

A. ワクチンには主成分である「抗原」のほかにも、製造過程において必要なもの（安定剤）や、ほかの細菌の増殖を抑えるもの（保存剤）などが入っていますが、ワクチンが製品として使われる段階では、検出できないくらいの量に減っているか、普通に生活するなかで農作物や海産物などの食品から体内に入る量よりも少ない量になっています。ワクチンの製造では、原材料・作り方・管理方法・検査方法などが厳密に決まっており、基準を守って作られ、国家検定を受けてから出荷されています。

Q4. 予防接種のことについてどうやって調べたらいいですか。

A. 信頼できるサイトとしては、厚生労働省「予防接種情報」、国立感染症研究所、日本小児科学会があげられます。

書籍や新聞、雑誌の情報が正しいとは限りません。より衝撃的な内容のほうが売れて、利益につながるからです。信頼できる情報を集める際には、①根拠となる文献が示されている、②個人の体験談や個人のブログではない、③著者がその分野の専門家で同業者から支持されている、④数字を出すときは分母も入れている（100人の話なのか？100万人の話なのか？）ということポイントをすると良いと思います。